

理科部史上初!!

り  
か  
ぶ  
っ  
し  
ょ  
ん

# 日本学生科学賞

## 地方審査で最優秀賞

受賞しました(\*°ω°\*)

作品名: 平尾台 カスト 広谷湿原について (1994~2011)  
グループ名: 理科部 広谷湿原保全プロジェクト

No. 34

担当者

木山 吉田 (木山 吉田)

地方審査で最優秀賞を受賞しました!! 「これ、福岡県内で選ばれたのは、17点中、たまたまの3点だけだから」との表彰式が11月2日(土)に福岡市であります。地方審査で最優秀賞に選ばれた学校が次のステージである「中央審査」に行くことができます。ということ!! 私たち広谷班も、「広谷湿原保全プロジェクト」は、中央審査に進むことができます!! うわーい!! 最終審査目指してがんばりまー!! ☆

11月(2日)の  
Xマシー  
S2B 森山  
S2D 吉屋 11:00  
吉田先生 学校  
集合!!

この受賞の件は読売新聞の取材を広谷班が受けました。記事は、裏面へGO!!



水島先生  
まさか、日本学生科学賞で中央審査に行くとはい思いませんでした。「毎生」も「夜空の明るえ」も届かなかった所です。「広谷...」最終に行きたいものです。

松本先生  
毎回、お見事です。おめでとく。さらに上位へ...!!  
でも、毎回、毎回の血のにじむ努力の賜物です。今後も、頑張ります!!

吉田先生  
聞かせてくれた...

部長 S2-C 土中  
日本学生科学賞!!  
すごいですねー僕も部長としてお祝いです。木山もがんばって行きましょ!!

# 学生科学賞 県代表に5点

第55回日本学生科学賞の県審査が福岡市中央区の読売新聞西部本社で行われ、中学校の部2点、高校の部3点が最優秀賞に選ばれた。最優秀賞の作品は県代表として、中央審査に送られた。県審査の表彰式は11月12日、西部本社1階よりプラザで行われる。

## 中・高から154点出品

出品作について  
意見を交わ  
す審査員



## 入賞者の皆さん (内は敬称略、かっこ内は指導教諭)

### 最優秀賞

◇中学校の部▽「結晶成長の不思議」西南女学院中3年山崎裕香(田中宏樹)▽「土と王砂崩れの関係調べ2」横手中3年加藤菜々子(金誠子)  
◇高校の部▽「水の汚れとCODの謎に迫る」兼手高科学部(小田裕)▽「平尾台カルスト広谷湿原について」東筑紫学園高理科部(水島明夫)▽「鉄の急激な腐食進行とその応用」久留米高化学部(中島修一)

### 優秀賞

◇中学校の部▽「人の目に見えない光の研究」小倉日新館中



読売新聞に  
掲載されたものです。  
上の記事：(10月28日(金))  
下の記事：(11月1日(火))

(23年) 11月1日(火曜日) 言 宣 衆 局

## 日本学生科学賞 県代表紹介

第55回日本学生科学賞の県代表作品として、高校の部3点、中学の部2点が中央審査に送られた。これらの研究を紹介する。

### 東筑紫学園高理科部

#### 「平尾台カルスト 広谷湿原について」



研究機材を手に、県代表選出を喜ぶ東筑紫学園高理科部(広谷湿原保全プロジェクト)の生徒ら

### 独創的な観点で考察続ける

水をためられないカルストの平尾台になぜ、湿原があるのか。部発足の翌1994年から18年にわたって研究「成因(出来た理由)」「減少」「再生」の観点で考察を続けてきた。  
「成因」では、マグマが冷えて固まった岩が川をせき止めて湿原を形成し、地下に洞窟ができた影響で残り続けていると推測した。「減少」では、研究当初から湿原の面積が61%も小さくなったことを測量の結果から把握。周囲の人工道からの土砂が湿原を埋めたためと結論付けた。湿原の「再生」のために、植物の侵入、繁殖を防ぐ「里山の手法」の導入を提案した。測量の図面を1枚完成させるのに、約60回やり直したり、狭い洞窟をほふく前進しながら水の流れを確かめたりした。粘り強い姿勢

と独創的な考察が、高く評価された。  
研究班のリーダーで2年生の森山由布衣さん(16)は、「湿原は奇跡が重なってできた貴重なものだから、愛着が深まった」と話した。

この日本学生科学賞は  
科学の甲子園!!  
と呼びかれています。



目指せ、  
入賞。(堅卓)